

<b>Title</b>	こころの健康とたましいの健康実施結果：アンケート集計結果の概要 (総合研究所 News：2013 年度 聖学院大学総合研究所カウンセリング 研究センター主催：臨床死生学研究講演会)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.3, 2014.3 : 60-62
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4970">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4970</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2013年度

聖学院総合研究所カウンセリング研究センター主催  
臨床死生学研究講演会

## こころの健康とたましいの健康 実施結果—アンケート集計結果の概要

石丸先生は精神科医であり、現在、放送大学教授として、社会人に対して死生学の講義をされている方です。今後、日本において、新しい死生学を構築しようとされている新進気鋭の将来性のある研究者です。これまで日本で研究されてきた死生学の流れをご紹介いただくと共に、自らキリスト者としての立場から死生学の持つ意味について語っていただきます。

日 時：2013年12月17日（火） 14:00～16:30

場 所：聖学院大学ヴェリタス館教授会室

### 【プログラム】

開会挨拶

講 演

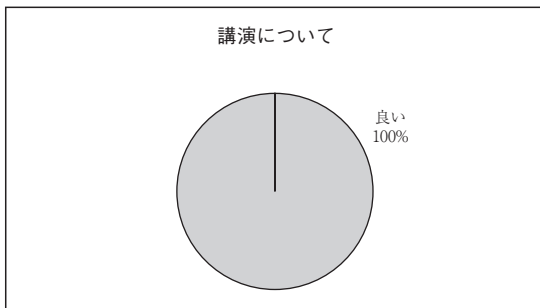
「こころの健康とたましいの健康」

石丸 昌彦（精神科医、放送大学教授）スーパー

質疑応答

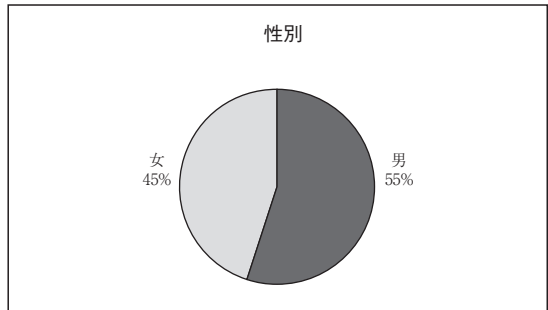
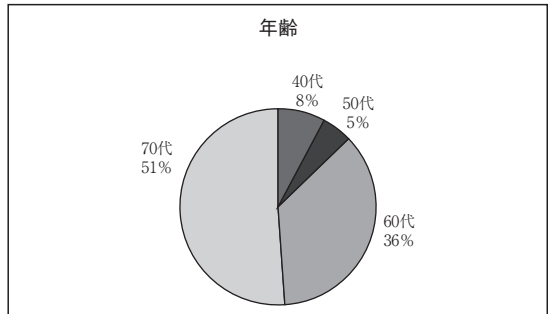
### 【結果の概要】

- ・参加者は70名。内アンケート回答者は39名。
- ・講演について、「良い」が100%と高い評価を得た。
- ・意見として、「大変参考になった」「もう少しじっくりお聞きしたい」「大変興味深く聞かせていただいた」など。



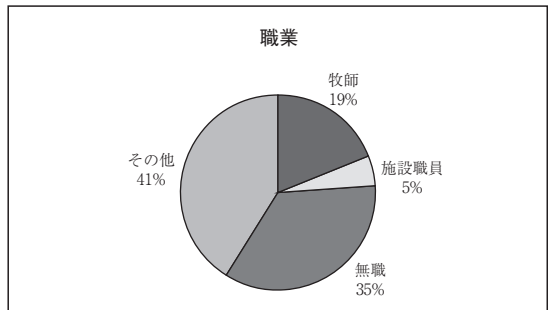
### グラフ

(N/A除く)



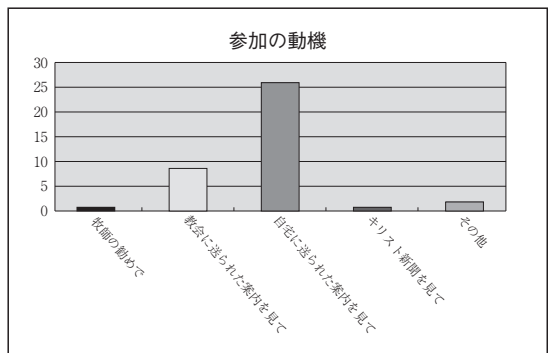
\*回答者の年齢は、「70代」が51%と最も多く、次に「60代」36%だった。

性別としては、男性55%、女性45%。



\*職業別では、「牧師」が19%。

「その他」の内容は、「NPO役員」「主婦」など。



\*参加の動機は、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「自宅に送られた案内を見て」となった。「その他」として、「友人に勧められて」。

## 今後の講演会について

- ・たましいのケアについて、もっと実践的例を教えてください。
- ・身体的介護、精神的介護に加えての「霊的介護」とは何かについて、理論的、実践的に伺いたい。
- ・日本人の死生観をもっと広く知る必要があると思いました。死生観は人を理解するのに大切だと思います。はじめて石丸先生のお話を聞くことが出来ました。これからも死生学を学んでいきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・引き続き石丸昌彦先生から、代表的な精神疾患の説明（原因・治療手法）と（教会）礼拝参加者にも精神疾病をかかえた方がいらっしゃり、その方に対する共に生きる生き方とは。
- ・聖書に出てくる「そう・うつ」（エリヤ、ヨナなど）の講解。
- ・DVの対処の仕方。
- ・薬物障害からの開放。"
- ・今回のような、キリスト教と人生観、死生観を学ぶ機会を多くして頂きたい。
- ・二俣泉先生のお話に興味あります。音楽療法での宗教的働きに着目されているクリスチャンの方です。
- ・多くは概論なので講演項目を減らして、更に深く思考を深めるものか聞きたい。または同じ講演者の一つのテーマを年間4回に分けてシリーズにするのはどうであろうか。
- ・まだ講演していない、聖学院大の教授の方の講演もお聞きしたいです。
- ・「うつ」を実際に経験された方のお話をうかがうことが許されれば幸いに思います。

## 自由意見

- ・スピリチュアルについて大変分かり易い内容の示唆に富んだお話で勉強になりました。日本人は個別の宗教には特化していないように思えますが、日本人そのものは伝統的に宗教心の強い国民だと思っていますので、本日の石丸先生のお話には共感が持てました。
- ・これからの人生において大変参考になった。また、おもしろかった。ありがとうございました。

- ・講演のお話すすめ方、とても分かりやすく、誤った考えも正され、そう、うつの理解が深められました。日本人的観念をふまえての話の内容、とても理解しやすかった。
- ・定年後、アメリカでgerontologyを学んでまいりました。本日の講演は大変おもしろく、有意義に私のこれからの課題にも触れるものでした。ありがとうございます。
- ・日常生活で深く考えることなく過ぎてしまっていることに触れる機会を与えて頂きありがとうございました。
- ・教会で毎月、がん哲学外来カフェ（樋野興夫氏の勧めで）をもっている。該当する人は来会していないが、会員が祈祷会のあと残って歓談し、意見を交換している。
- ・限られた時間なので、団魂の世代である自分たちは、霊的なバックアップが無いという言葉は実感として迫ってき、その子どもたち、30～40代もまたしかり、何のために生きているのかを見失っている気がします。今からでも学び、霊的な軸をしっかりと身につけたいと思いました。感謝です。
- ・今の時代は悩み多き時代。しかし、その悩みを深く受けとめることが出来ない。そこにキリスト教会の使命があると思います。しっかり悩むことが大切だと思います。
- ・とても教えられました。心より感謝申し上げます。日本人の「こころ」との捉え方は極めて多義的、それを分節的にというご指摘に、頭が整理させる思いがしました。こころよりありがとうございました。質疑応答における、石丸先生の謙虚さに心打たれました。
- ・もう少しじっくりお聞きしたいと思いました。
- ・大変興味深く聴かせていただきました。参加させていだいて感謝です。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・日本人の死生観についての話がわかりやすかった。
- ・また来たいと思います。
- ・感謝します。
- ・もう少し時間が長ければ、ゆったりと聴講できるのに残念です。聴講している方で、誠実に熱

心に聴かず態度の悪い感じを与える方がいて残念です。キリスト者であつたら、講師の先生に失礼だと思います。神様にも大変な罪です。